

鳥取大学
eポートフォリオシステム
とりぽ（仮称）の運用



今なぜポートフォリオなのか？

学習・評価理論のパラダイムシフト

1910～1960年代全盛

1970年代

1980年代以降

学習理論		行動主義	認知主義 (情報処理的アプローチ)	構成主義	社会的構成主義
主な理論家		スキナー	ガニエ	ピアジェ	ヴィゴツキー レイブとウェンガー
学習	特徴	学校化された学習		真正な学習	
	知識観	知識は普遍的に真なもの		知識は一人一人が自ら構成するもの	知識は社会的な営みの中で構成するもの
	学習観	知識伝達		学習者の事前知識から事後知識への質的な変化	学習者の事前知識から事後知識への質的な変化(共同体の社会的な営みを通じた内化)
	主体	教師中心		学習者中心	
	学習者の態度	受動的		能動的・自律的	
	学習課題	学校化された課題		真正な課題	
	学習の傾向	暗記中心の学習		経験による学習	
	教師の役割	知識の提供者		学習のファシリテーター	
	情報システムへの適用	CAI ティーチング・マシン	知的CAI 知的チュータリング・システム エキスパート・システム	LOGO マインドストーム	CSCL eラーニング
	評価	特徴	学校化された評価		真正な評価
評価期間		ある時点		継続的	
評価形態		テストの客観的な評価		学習者のパフォーマンスの主観的な評価	
評価される対象		テストの点数を重視		学習活動のプロセスを通じた学習成果物や記録を重視	
評価の在り方		学習と切り離された評価		学習に埋め込まれた評価	
評価方法		テスト		ポートフォリオ	
評価方法		能力測定	学習プロセス同定と 診断的評価	セルフ・アセスメント	ピア・アセスメント (専門家による) 他者評価

真正な学習とは

現実課題を解決する等、リアルな課題、現実に即した活動によって進められる学修者による自律的な学修であり、必要な知識を収集・統合し、自ら適切な判断を下しながら課題解決を図る力が必要とされる。

真正な評価とは

学修活動のプロセスを通じた継続的な学修成果物や学修履歴データ等の記録(エビデンス)を重視し、これらを用いて学修者を評価する。この際に学修のエビデンスとなるのがポートフォリオであり、真正な評価には必須のものとなった。

Society 5.0時代に求められる人材と大学教育

Society 5.0

仮想空間と現実空間の高度な融合
→人間中心の社会

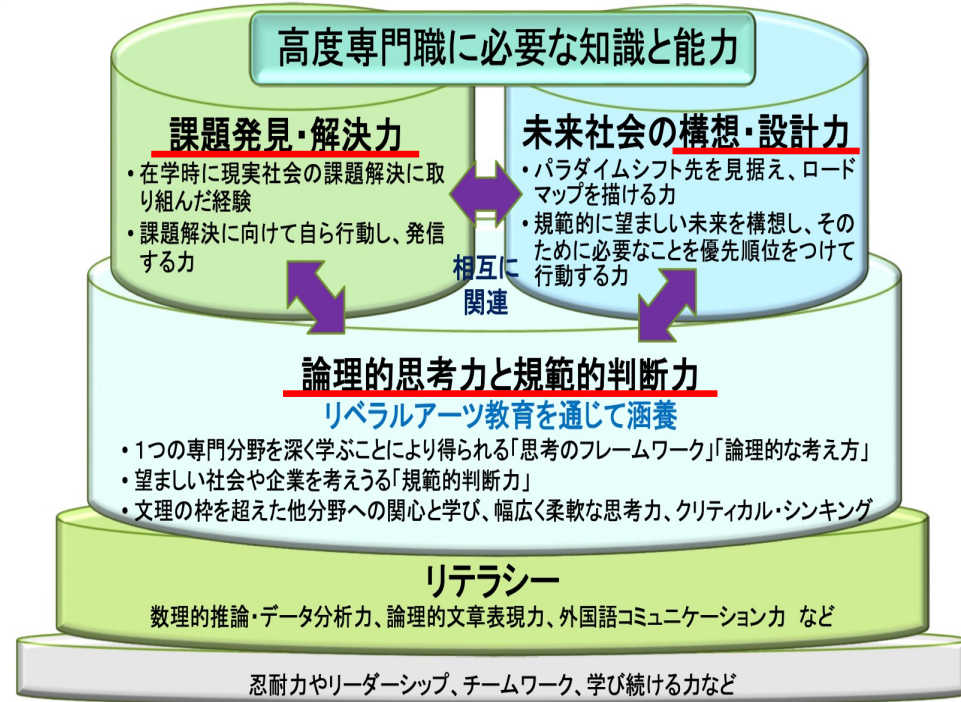


令和3年版科学技術・イノベーション白書冒頭イラストより

Society 5.0に関連する Key word 一部

人工知能 (AI), Internet Things (IoT)
データサイエンス, ロボティクス

「Society 5.0人材育成分科会」における産学の共通認識：論理的思考力と規範的判断力をベースに社会システムを構想する力を備えた人材



出典：中間とりまとめと共同提言

－概要－ 2019年4月22日 / 採用と大学教育の未来に関する産学協議会

- 世の中の大変革期にいる中、試験で良い点をとる人が求められているのではなく、課題発見・解決力、未来社会の構想設計力等を身につけている人材育成が直近課題。
- 点数だけの評価をしていれば学生は点だけ取れば良いと考え、学生自身の可能性を狭め、学習動機付けにも影響を及ぼす。

→大学教育はSociety5.0社会を生き抜き、発展させる人材育成のためにも学修者中心の「真正な学修」を多く提供し、「真性な評価」を実施することが必要

**以下、eポートフォリオシステムの
入力方法**

参考画面

eポートフォリオシステム画面 moodle

(サンプル) 例：医学部医学科

参考 レーダーチャートの見方
<https://www.tottori-u.ac.jp/6019.htm>

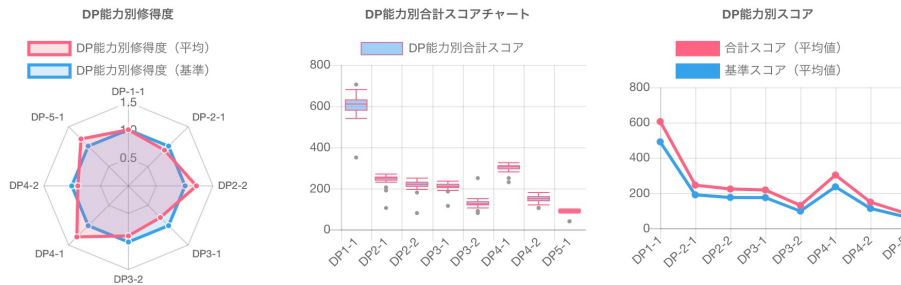
鳥取大学医学部 マネージャー

日本語 (ja)

メッセージ

2018年入学者：DP能力別評価（学年）

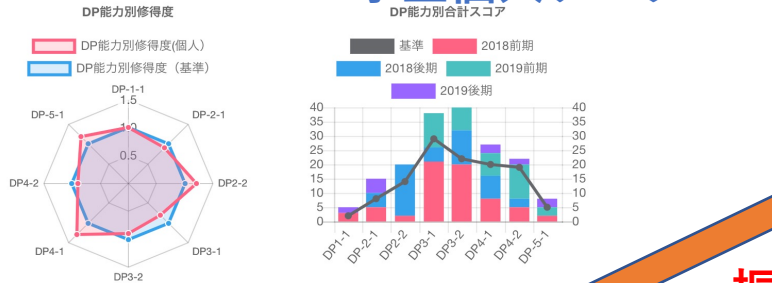
学年データ



1年次

DP能力別評価（個人）

学生個人データ



振り返り画面へ

- DP1-1：基本的な知識・技能・態度
- DP2-1：人間力と倫理観
- DP2-2：患者中心の医療の実践
- DP3-1：倫理的思考力・判断力、チーム医療
- DP3-2：コミュニケーション能力
- DP4-1：知的探究心と創造性
- DP4-2：国際的視点で考える能力
- DP5-1：地域医療に貢献する能力

コース概要

すべて (表示から削除済みを除く)

コース名

カード

コースを表示

振り返り
2018年度入学者振り返り

GI 管理
2019年度後期

前期
サンプルコース

あなたの回答（例） 1. Reflecting 学修結果の分析・省察

回答者: 学生 302 送信完了: 2021年 10月 4日(月曜日) 10:40

DP3-2: コミュニケーション能力

具体的なコンピテンシー（能力）

- 1 患者や患者家族とコミュニケーションを通じて、良好な関係を築くことができる。
- 2 医療チームのメンバーとコミュニケーションを通じて、連携を図ることができる。
- 3 聴覚障害者などの障害者と手話等でコミュニケーションをとって、円滑な診療をサポートすることができる。
- 4 地域フィールドの中で、地域住民、行政関係者、医療関係者らとコミュニケーションをとり、社会性を身につけ良好な関係を築くことができる。
- 5 安全かつ有効に情報ネットワークを活用してコミュニケーションを取ったり、情報を収集したりできる。

自己評価の入力画面

1

自己評価を選択してください。

- 1 まったく達成していない
- 2 あまり達成していない
- 3 少し達成している
- 4 まあまあ達成している
- 5 かなり達成している

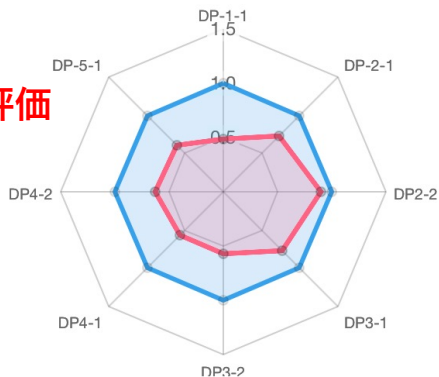
回答者: 学生 302 送信完了: 2021年 10月 4日(月曜日) 10:40

DP3-2: コミュニケーション能力

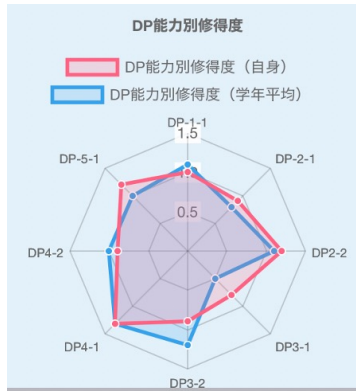
具体的なコンピテンシー (能力)

- 1 患者や患者家族とコミュニケーションを通じて、良好な関係を築くことができる。
- 2 医療チームのメンバーとコミュニケーションを通じて、連携を図ることができる。
- 3 聴覚障害者などの障害者と手話等でコミュニケーションをとって、円滑な診療をサポートすることができる。
- 4 地域フィールドの中で、地域住民、行政関係者、医療関係者らとコミュニケーションをとり、社会性を身につけ良好な関係を築くことができる。
- 5 安全かつ有効に情報ネットワークを活用してコミュニケーションを取ったり、情報を収集したりできる。

自己評価



客観評価



1 よく学べた点 (自己の強み) を記入してください。 **よく学べた点の記載**

早期体験ボランティアでは、病院内の見学を通して、医師、看護師、薬剤師等の役割や連携について学ぶことができた。脳梗塞の患者さんのリハビリテーションを見学し、その時の身体状態を医師、看護師に報告しリハビリテーションの方法の改善に繋げることができ、円滑な診療サポートに役立った。

ヒューマンコミュニケーションでは、保育園体験から幼児とのコミュニケーションについて実践的に学ぶことができた。担当した幼児と一緒に金メダルを作成し、最終日に私へプレゼントしてくれたことは心に残っている。この体験から小児科への関心も高まり、小児科とコミュニケーションに関する書籍を1冊ずつ自己学習した。

2 * できなかった点を記入してください。 **できなかった点の記載**

基礎手話の授業では、手話を覚えることが難しく、スムーズに実践することができなかった。

3 * よく学べた点の成果となるリンクを記述してください。 **よく学べた点の成果となるリンクを選択**

- ・早期体験ボランティアレポート課題 https://drive.google.com/file/d/1A9mkXuO03NGIgt4NHCJGz2D4Q_V/view?usp=sharing
- ・ヒューマンコミュニケーション グループ応用課題 https://drive.google.com/file/d/1A9mkXuO8i3l03NGIgt4NHCJGz2D4Q_V/view

(参考資料) DP能力別修得度計算方法

1) 学生が履修した全授業科目に対して、単位数、成績情報、当該科目の各 DP 能力の配点（統合配点表）を求める。

評価	評価点	比率	備考
A	90~100	評価点/60	評価点に基づく比率
B	80~89		
C	70~79		
D	60~69		
S	合格	評価点(80)/60	Sは、学務支援システムにおいて評価点「80」が入力されている。 Nは、学務支援システムにおいて評価点「80」が入力されている。 ※比率はこのままで良いのか要検討 →ひとまずこのままとする。 ※算出する授業科目として含めるのか要検討 →現状では含めるものとする。
N	認定		
F	不可/不合格	0.0	Fは、学務支援システムにおいて評価点「0~59」が入力されている。
E	不履修	0.0	Eは、学務支援システムにおいて評価点「0」が入力されている。

各授業科目のDP能力配点表 例

科目コード	科目名	DP能力1 -1 基本的な 知識(技 能・態度)	DP能力2 -1 人間力と 倫理観	DP能力2 -2 患者中心 の医療の 実践	DP能力3 -1 論理的思 考力・判 断力	DP能力3 -2 コミュニ ケーション 能力	DP能力4 -1 知的探求 心と創造 性	DP能力4 -2 国際的視 点で考え る能力	DP能力5 -1 地域医療 に貢献す る能力	合計	区分	備考
M3110300	医療英語 I	0	0	2	0	0	2	6	0	10	医学科:外国語	必修
M3110400	医療英語 II	0	0	2	0	0	2	6	0	10	医学科:外国語	必修

2) 1) の結果を基に、学生ごとに以下に示す DP 能力別修得度を算出する (i は各教育プログラムにおける DP 能力数を示す)。

$$\text{DP 能力別合計スコア (i)} = \sum_{j=1}^{\text{全履修科目数}} [\text{授業科目の単位数(j)}] \times [\text{成績評価に基づく比率(j)}] \times [\text{各 DP 能力の配点(i,j)}]$$

$$\text{DP 能力別基準スコア (i)} = \sum_{j=1}^{\text{全履修科目数}} [\text{授業科目の単位数(j)}] \times [\text{各 DP 能力の配点(i,j)}]$$

$$\text{学生の DP 能力別修得度(i)} = \frac{\text{DP 能力別合計スコア(i)}}{\text{DP 能力別基準スコア (i)}}$$

例：Aさんが医療英語 I（2単位）で80点をとった場合

医療英語におけるDP2-2計算例

DP能力別合計スコア = 2単位 × 比率1.33 (80 ÷ 60) × DP能力配点2 = 5.32

DP能力別基準スコア = 2単位 × DP能力配点2 = 4.00

DP能力別修得度 = 5.32 ÷ 4.00 = 1.33

3. Self-Regulating 自己調整（新たな目標設定、学修方略設定等）



来年度の目標設定、学修方略設定(フォーマルラーニング)

1

* 来年度の学修目標を記入して下さい

- 地域医療に関するDP能力別修得度が今年度低かったため、DPに関連する授業を把握しDP能力を身につける。
- 患者中心の医療の実践についてDP能力向上を目指す。

2

* 来期への学修方略を記入して下さい。

- 地域医療に関連する授業を日々1時間復習にあて、試験のための学習時間の割合を2割増やす。
- 来年度から診療に関連する授業が増えるので該当科目を重点的に学ぶ。
- 関心の高い小児領域とデータサイエンス領域については、今年と同様に学びを続ける。

来年度の目標設定、学修方略設定(インフォーマルラーニング)

1

* 来年度の目標を記入して下さい。

運動体験活動

- 西医体 優勝

ボランティア体験活動

- 医学部のクリーングリーン活動への参加

2

* 来年度の方略を記入して下さい。

早朝ボランティア活動に参加するため、

タイムマネジメントを一層注意。